

平成26年度 宇都宮市立豊郷中央小学校 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、ねばり強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2) 具体目標

- 1 **【かしこく】** 進んで学びよく考える子ども（基礎学力を身につけ、自ら考え進んで学習する。）
- 2 **【なかよく】** 思いやりがあり心豊かな子ども（相手の気持ちを考え、だれとでも仲よくする。）
- 3 **【たくましく】** 元気でがんばる子ども（心身共に健康で、粘り強く活動する。）

2 学校経営の理念

テーマ「子どもの笑顔と活気があり、地域に開かれた信頼される学校」

子どもの健やかな成長のためには、学校生活の中で、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜び、を味わわせることが大切であると考えます。

そのためには、教職員一人一人が組織の一員としての自覚を持ち、互いを思いやり、居がいのある職場の中で学校目標達成に向けて同僚性を発揮していくことが望まれる。まず大切にしたいのは「わかる喜び」を実感させることができる指導力を身に着けるということである。子どもの学力を育て、心を育てることが出来る教師でありたい。さらに保護者や地域への時機を得た発信と共通理解の下での連携を推進し、地域に根ざした教育活動を展開することが大切である。その結果、子ども一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが育まれ、子どもの笑顔と活気のある楽しい学校を目指す。

3 学校経営の方針（地域学校園内で共通する方針は、文頭に○または該当箇所に下線）

(1) 学校運営の適正化

- 教職員の学校経営への参画意識を高め、課題解決に向けて一人一人が考える組織づくり
- 全教職員の共通理解、課題意識の共有化
- 進捗状況、達成状況の把握と教育活動の工夫改善
- 課題や問題、事故等に対して、組織的かつ迅速に対応
(学年会、いじめ・不登校対策委員会、校内支援委員会)
- 効果的、効率的な学校運営
- 組織内の意思疎通に努め、支え合う職場風土の醸成

(2) 教職員の資質の向上

- 人権感覚の高揚、同僚性、協調性の発揮
- 積極的な研修への取組

(3) 学校学級経営の充実

- 居甲斐のある学級づくり
- 子どもの人間関係の構築
- いじめ防止対策の強化
- 児童が安心して生き生きとした学校生活を送ることができる環境づくり

(4) 学習指導の充実

- よく分かる授業を目指し、日常の学習指導の一層の改善
- 児童一人一人がよく聞き、互いを認め合い、学び合いのある授業
- 望ましい学習態度・学習習慣の形成 ・ 読書活動を一層推進

(5) 豊かな心の育成

- 「命あるものを大切にすること」、「思いやりの心」を育てる働きかけ
- 豊かな心を育む教育環境の整備・充実

(6) 体力の増強と保健安全教育の充実

- 児童が主体的に取り組む体力づくり活動を推進
- 食育の充実（担任および栄養士）

(7) 児童指導の充実

- 児童の心に寄り添った指導の推進（個々の児童の理解、教育相談）
- 全教職員の共通理解による同一步調での指導の徹底
- 人と関わる力や社会性を培う活動の充実
- 基本的な生活習慣の定着
 - ・ 縦割り班活動などの集団活動や交流教育の充実、ボランティア活動の推進
- 児童の主体的な活動の推進
 - ・ 特別活動の充実
- 企画委員会、学年会、校内支援委員会の充実

(8) 家庭・地域との連携及び聞かれた学校づくり

- 魅力ある学校づくり地域協議会、地域人材の活用
- 積極的な情報発信 ○ 効果的な授業参観、オープンスクールの実施

4 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

(1) 学校運営

子どもの笑顔と活気があり、地域に開かれた信頼される学校

(2) 学習指導

教職員や地域の教育力を生かした、基礎・基本の徹底と表現力の育成

(3) 道徳教育（児童生徒指導）

人権尊重を基盤にした、心豊かで思いやりがあり、他人に奉仕できる児童の育成

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

健康と安全の意識を高め、何事にも元気にたくましく頑張りぬく児童の育成

5 特色ある学校づくりに関する取組

(1) 育てたい資質・能力（地域学校園内で共通するものは、文頭に○または該当箇所に下線）

テーマ「地域から学ぶ学校」地域の人材や素材の活用を通して

- ・ 学校や地域を愛し、人を思いやる心豊かな児童
- ・ 社会性を身に付けた個性豊かな児童

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）

① 教育課程への位置づけと具体策

- ・ 地域と関連する活動の実践と年間指導計画への位置づけ(各教科領域 総合的な学習)
- ・ 連携した学習を推進するための体制づくり

② 学校・家庭・地域との連携を図った活動の充実

地域教材の活用や、地域在住の人材活用による様々な体験や心の触れ合い活動の推進

③ 各機関・企業との連携を図った活動の充実

④ 特色ある学校づくりに関する保護者や地域への啓発

6 学習指導に関する取組

(1) 学習指導上の主な実態

①学習内容定着度調査などから

国語では「読む能力」、「話す・聞く能力」については高い正答率を示した。領域別の音声言語では話の中心・話の内容・話し方の工夫など聞き取りが全体的によくできている。また、話合いの流れに沿った意見を記述することもよくできている。文学的文章の場面の様子・登場人物の心情を読み取ることもできている。これからはさらに言語活動の充実を図り、国語科以外の教科・領域を含め、学校教育全体を通して指導をしていきたい。

算数では正答率の高い学年と低い学年とに分かれる結果となった。高い正答率を示した学年は、全領域とも市の平均を上回っており、学習内容の定着が図られている。低い正答率を示した学年は、各領域とも市の平均を下回っていた。これからは、全学年ともに学習の向上が見られるように、学習意欲を高める工夫や学習形態の工夫などを行い、学習の習熟に努めていきたい。

②学習と生活についてのアンケートから

どの学年の児童も学習に対する興味・関心があり、「学習内容がとてもよく分かる」、「分かる」と肯定的に答えている。また、家庭学習に意欲的に取り組み、学年に応じて学習時間が十分に確保され、全体的に学習に対しての意識が高いことが伺える。今後も家庭の協力を得ながら家庭学習の習慣化を図っていきたい。また、読書は楽しいと答えている児童も多い。しかし、「先生や友達の話最後まできちんと聞いている」の肯定的割合が少ない学年が見られたことが課題である。これから、話の要点や中心点を正確に聞き取る力を高め、さらに学習に意欲的に取り組み、学力の向上を図っていききたい。

③授業等への取組状況から

児童は全般に落ち着いて学習していて、出された課題についてはまじめに取り組むことができるが、次のような問題点もある。

- ・ 基礎・基本の定着が十分ではなく、学習意欲が乏しい児童も見られる。
- ・ 出された課題には意欲的に取り組むが、自分から課題を見つけることや、友達の考えと比較関連させて、自分の考えを深めたり広めたりすることには苦手な児童が多い。
- ・ 文章を注意深く読み取る力や、自分の考えや理由を相手に分かりやすく示して表現する力（特に、書く力）が不十分である。

(2) 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

- ・ 教職員や地域の教育力を生かした、基礎・基本の徹底と表現力の育成

(3) 今年度の取組

（地域学校園内で共通する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

①基礎・基本の確実な定着

- ☆ 話の聞き方、発表の仕方など基本的な授業の心得の徹底（通年）
- ☆ 漢字や計算など、繰り返し学習の推進による基礎学力の向上（朝の学習、通年）
- ☆ 標準時数を上回る授業時数の確保
- 各教科等において、当該学年で身につけさせるべき、基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させる学習指導（通年）
- ・ 基礎・基本の習得に課題が見られる学習内容について、個に応じた補充指導（通年）

②学習指導の工夫・改善

- ☆ 授業を見せ合い、明確な課題提示や発問、丁寧な机間指導による「分かる授業」の実施（通年）
- ・ 学習意欲を高めるための教材提示や課題設定の仕方、展開、学習形態などの工夫（通年）
- 自分の考えをまとめ、発表できるような指導の工夫（通年）
- 友達と考えを深めたり広めたりできる学び合いの場の工夫（通年）
- ・ 習熟度別学習、少人数指導、T・T指導を取り入れた学習形態の工夫（通年）
- ・ 基礎・基本が十分身につけている児童に発展的な課題を持たせ、さらに力を伸ばすための教材の開発や展開の工夫（通年）
- ・ 言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成（通年）
- 小中学校9年間を見通し、指導の系統性や適時性を考慮した指導（通年）
- ☆ 学習内容定着度調査、学習と生活についてのアンケートの公表（3月）

③読書活動の充実

- ☆ 全校生による朝の読書の実施（毎週2回）

- ・ 学習情報センターとしての学校図書館利用の推進（通年）
- ・ 各教科、領域及び総合学習における学校図書館司書の学習参加（通年）
- ・ 説明的文章や文学的文章を的確に読み取ることができるような指導法の工夫・改善と読解力の向上（通年）

④家庭・地域との連携・協力

- ☆ 学校を積極的に公開するとともに、学校の情報を計画的・継続的に発信・提供（通年）
- ☆ 家庭学習の習慣化の大切さ、テレビ視聴、ゲーム等の時間についての約束づくりの話合い（家庭訪問、懇談会、個人懇談）
- ☆ 家庭と連携した学習環境づくりへの取り組みを進め、学習習慣の確立（通年）
- ☆ 発達の段階を踏まえた校種間の円滑な接続を図り、長期的展望に立った指導の推進（就学前と小学校、小学校と中学校）（通年）
- ☆ 今日的な課題へ適切に対応できる能力の育成（情報、環境）（通年）
- ☆ 「街の先生」などの学習ボランティアの協力を得た授業や学習支援の実施（月1回程度）

7 道徳教育（児童生徒指導）に関する取組

（1）道徳教育（児童生徒指導）上の主な実態

①問題行動等調査から

- ・ 児童の学校生活の中で遊び的な「ふざけ」や「からかい」から仲間はずれなどに発展した事例はあったが担任の早期発見・指導により「深刻ないじめ」に発展した事例はない。
- ・ 仲のよい友達がいると思っている児童がほとんどで、おおむね先生は自分のことを理解してくれていると感じている。
- ・ 集団行動になじまず別室で授業を受けている児童も個別指導により、よい方向へ向かっている。

②学習と生活についてのアンケートから

- ・ 学校のきまりを守って生活しようという意識はあるが、つい廊下を走ってしまうなど学校の決まりをわかっているが、十分定着しているとはいえない。
- ・ 大多数の児童が学校に来るのが楽しいと答えており、明るくのびのびとした学校生活を送っている。

③学校生活の状況から

- ・ 呼びかけに対するあいさつは元気にできるのだが、場に応じた言葉遣いが上手にできなかったり、友人に対して思いやりにかかる言葉を発したりする児童も見られる。自分ではあいさつをしていると感じているが、まだまだ声が出ていない。
- ・ 児童集会など興味・関心があることに関しては意欲的であるが、清掃など勤労奉仕的活動に対しては消極的な児童も見られる。

（2）今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

- ・ 人権尊重を基盤にした、心豊かで思いやりがあり、他人に奉仕できる児童の育成

（3）今年度の取組

（地域学校園内で共通する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

①基本的生活習慣の育成

- ☆ 「あいさつ週間」の実施、「みんなのやくそく」強化週間
- ☆ 朝の会や帰りの会を利用して「学習のきまり」や「みんなのやくそく」の指導を継続していく。

②望ましい集団づくり

- ☆ Q-U調査の結果を生かした学級経営
- ☆ 道徳の時間や学級活動等でいじめを題材とした授業を実施 ☆ 人権週間や読書タイムの充実

③個に応じた指導の充実

- ☆ 必要に応じて「いじめ・不登校対策委員会」を開き早期に対応する。
- ☆ 教育相談週間の実施（6月、12月）
- ☆ 児童の記録の活用、「子どもを語る会」を実施、学年会・職員会議での共通理解等、積極的に問題行動の児童理解に努める。
- ・ 特別活動の充実を通して、一人一人に応じた支援やよさを伸ばす指導

8 健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

（1）健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

①定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・ 定期健康診断の結果から見ると、う歯の罹患率が高く、高学年になるにつれて、う歯の治療率が低い。また、視力の低下傾向にある児童がとて多い。
- ・ スポーツ振興センター災害給付対象児童は、以前に比べ減少し、大きな外傷は少なくなった。しかし、不注意による軽度な擦過傷などの外傷が多い。
- ・ 平成23年度の元気っ子健康体力チェックの結果を見ると、立ち幅跳びや上体起こしは全国平均を上回っている学年が多い。しかし、ソフトボール投げや50メートル走は、全国平均を下回る学年が多い。走力や投力を高める必要があると思われる。

②元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートから

- ・ 運動やスポーツが好きな児童は9割以上いたが、得意な児童は8割前後になってしまう。
- ・ 朝ごはんを毎日食べている児童は、94%である。
- ・ 食事の大切さを知り、好き嫌いをしないで食べている児童は8割程度いる。
- ・ 睡眠時間が8時間未満の児童が3割もあり、早寝早起きを心がけている児童は、8割であった。

③授業や体育的行事等への取組状況から

- ・ 運動会は6月に行うが、「みや!!元気っ子たいそう」をしたり、全学年表現種目もあったりと、児童は熱心に取り組んでいる。
- ・ なわとびや持久走の練習の時期になると休み時間に進んで練習している児童が多く見られる。
- ・ ボール運動が好きな児童が多い。ルールを守れない児童も数名見られる。

（2）今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線） 健康と安全の意識を高め、何事にも元気にたくましく頑張りぬく児童の育成

（3）今年度の取組（地域学校園内での取組は文頭に○、スタンダードに関する取組は文頭に☆）

①望ましい食生活習慣の育成

- ☆ 食事アンケートにおける朝食をとっていない児童の面談実施と給食だよりの発行(通年)
- ☆ 学校給食における地産・地消推進事業(通年)
- ☆ 「とよおう水田」を利用した米作りと「なかよし農園」を利用した野菜作りを活用した特色のある給食
- 食育推進分科会による「食の大切さ」の授業と実践地域学校園統一のお弁当の日の実施（12月）

②体力の向上

- ☆本校独自の体力アップのための「とよおうサーキット」の実施
- 鉄棒がんばりカードとなわとび検定表の統一
- 中学校につなげる基礎体力の向上（例：壁倒立）

③家庭・地域との連携協力

- ☆ 保健だよりの発行(通年)と学校保健給食委員会の実施（9・12月）
- ☆ 地域ボランティアへの児童の登下校中や放課後の安全の呼びかけ(通年)
- ☆ 避難訓練時のスクールガードリーダーによる指導（6月）